

思い込め絵筆力強く

脳性まひによる肢体不自由の障害がある山本洋平さん(37)＝小田原市＝が描きためた絵画の個展が11月9日まで「ほうあん地域支援センター」(同市本町)で開かれている。障害のため、言葉で伝えることのできない思いも絵筆に込め、通所施設職員の協力も得て力作がそろった。発表の場を用意した施設職員は「体が不自由でも絵は描ける。障害者を知ってもらいきっかけになれば」と呼びかけている。

(深沢 剛)

山本さんは生後11カ月で脳性まひとなり、左半身を自由に動かせない。それでも幼いころから右手で筆を持って絵を描くのが好きだった。18歳から障害者施設「ほうあん第一おん」(同市根府川)に通い、日常を過ごす中で4年ほど前から本格的に創作活動に注力するようになった。

描くのは大胆に絵の具で塗りつぶす抽象画。配色カードから山本さんが選んだ絵の具を職員が用意するが、絵筆を握れば一人で何時間も創作に没頭する。独自の表現方法でこれまで手がけた作品は40点を超える。

身ぶり手ぶりで意思疎通はできても自ら言葉で説明できないため、何を描いたのか「正解」は誰にも分からない。個展会場には赤く

脳性まひの山本さん初個展

小田原市本町
11月9日まで



山本さんが趣味で絵を描き続け、初めて個展を開いた山本さん

＝小田原市本町の「むすび処 茶のまある」

「障害者知るきっかけに」

わったアンケート箱も。来場者からは竜やキンメタイとの回答が多いという。山本さんの創作活動をサポート

なのか、正解は見た人がそれぞれ感じたものでいいと思つ」と笑う。

個展は同施設の計らいで実現し、同センター内にある知的障害者の働く喫茶スペース「むすび処 茶のまある」の壁に色鮮やかな11点を並べた。吉沢宏次所長は「(山本さんは)人から

褒められることが好きだから多くの人に見てもらえれば自信にもつながるし、ほかの入所者の刺激にもなる」と説明する。

人を優しく気遣う性格で、母の日には母・洋子さんに絵をプレゼントするという山本さん。洋子さんは「わが子ながら力強い筆遣いでよく描けている。周りと一緒に楽しんで絵を描ける環境をつくってもらって(職員たちに)感謝したい」と目を細めた。

入場無料、午前10時～午後3時半。土・日曜、祝日